

- ▶ A・[B]・[C] ごとに別紙を使用する。
- ▶ その中での情報は地点番号順に並べる。
- ▶ 注記の<>〔〕[]は厳密にする。

質問番号 264	地図番号 66	A 普通注記	ページ
項目名 かつぐ(棒) 204		[B 除いた共通語]	[C 除いた特殊語] (/)

地点番号	A 語形とその注記 [B・C 除いた語形とその注]	A 注のない語形 [B・C 残した語形とその注]		
3783.08	Ka'tsui'ŋu (ü は わ す か に 中 古 化)			
4667.76	bukqanerneru <そんざいな言い方>	qanerneru		
4686.02	katsuneru <新><共>	kataneru		
4695.87	[katsuneru] (新)	kazukku		
4706.84	ka'tsu'ŋu (アクセントが微妙であった)			
4742.43	<table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding-left: 5px;">(この両語形を無反省に同じ よりに意識して使っているようである)</td> </tr> </table>	}	(この両語形を無反省に同じ よりに意識して使っているようである)	
}	(この両語形を無反省に同じ よりに意識して使っているようである)			
4760.98	ka'tsui'ŋu (ü の中古化は軽微)			
5528.31	kataneru <希>	katagu		

- ▶ A・(B)・(C)ごとに別紙を使用する。
- ▶ その中での情報は地点番号順に並べる。
- ▶ 注記の<>()は厳密にする。

質問番号 264	地図番号 66	A 普通注記	ページ
項目名 かつぐ(棒) 264		(B 除いた共通語)	(2)
		(C 除いた特殊語)	

地点番号	A 語形とその注記 (B・C 除いた語形とその注)	A 注のない語形 (B・C 残した語形とその注)
5538.49	kazuku } <どちらか使う> kataneru }	
5549.32	kataneru <希> <カタネルともいう>	kataju
5575.00	katagü (優先)	kadzü kü
5586.56	katsugjerü } 2形並存 katsugjü }	
5625.91	katsugm [katsugm]	
5675.87	カツグ 重い荷物を背負う時	
596.68	ninam <やや改った言い方がわからない>	katsugm
5793.74	kazurm <kazurmともい>	

- ▶ A・(B)・(C) ごとに別紙を使用する。
- ▶ その中での情報は地点番号順に並べる。
- ▶ 注記の〈 〉() は厳密にする。

質問番号 264	地図番号 66	A 普通注記	ページ
項目名 かつぐ(棒) 264		(B 除いた共通語)	(3)
		(C 除いた特殊語)	

地点番号	A 語形とその注記 (B・C 除いた語形とその注)	A 注のない語形 (B・C 残した語形とその注)
6339.86	イナウ <多>	カタグ
6412.91	inam <古>	pinam
6424.92	カタグ <普>	カツグ
6425.41	カタグ <普>	カツグ
6465.82	カタグ <普>	カツグ
6472.05	kadagm <古>	katsügu
6485.30	カタグ <カタイドル>	
6485.46	カタグ (この絵を見てカタイドルといた。)	
6497.00	Katsmidorm(オ集1回・2回によ) katsungu とした)	

- ▶ A・〔B〕・〔C〕ごとに別紙を使用する。
- ▶ その中での情報は地点番号順に並べる。
- ▶ 注記の〈 〉()〔 〕は厳密にする。

質問番号 264	地図番号 66	A 普通注記	ページ
項目名 かつぐ(棒) 264		〔B 除いた共通語〕	(4)
		〔C 除いた特殊語〕	

地点番号	A 語形とその注記 (B・C 除いた語形とその注)	A 注のない語形 (B・C 残した語形とその注)
6503.73	katsukü } 双方同等に言う katakü }	
6542.58	カク° (ŋu)? (カツク°の鼻音は粗 の発音でさえも聞かれない時がある)	よわ<教団 カタケル (ŋe)
6552.90	katageru (263と264との間に区別はない。)	
6553.22	inau } (どちらでも使う。) katageru }	
6553.99	katageru (263と264との区別はない。)	
6560.40	カタケテキタ (カタケル)	カツク°
6572.29	katageru (263と264との区別なし)	

- ▶ A・(B)・(C)ごとに別紙を使用する。
- ▶ その中での情報は地点番号順に並べる。
- ▶ 注記の<>()は厳密にする。

質問番号 264	地図番号 66	A 普通注記	ページ
項目名 かつぐ(棒)		(B 除いた共通語)	(5)
		(C 除いた特殊語)	

地点番号	A 語形とその注記 (B・C 除いた語形とその注)	A 注のない語形 (B・C 残した語形とその注)
6574.52	katageru (263と264と区別しない)	
6583.19	katagu (アクセント「カタグ」)	
6583.45	katagu (「カタグ」)	
6593.98	katsugu (「カツグ」)	
7229.50	katamuru <kataguru 比べて Katamuru は 重いものをかつぐ時に使う>	
7238.12	katamuru <kataguru の方は や、軽いものをかついた時?>	
7239.82	kataguru こちらが多く使う	katamuru
7259.98		

- ▶ A・(B)・(C)ごとに別紙を使用する。
- ▶ その中での情報は地点番号順に並べる。
- ▶ 注記の<>〔〕は厳密にする。

質問番号 264	地図番号 66	A 普通注記	ページ
項目名 かつぐ(棒) 264		(B 除いた共通語)	(6)
		(C 除いた特殊語)	

地点番号	A 語形とその注記〔B・C 除いた語形とその注〕	A 注のない語形〔B・C 残した語形とその注〕
7259.98	kataguru <古> } (この区別はやや疑わしい) katamuru }	
7340.50	katamu2 <ヤ> 重いものをかつぐ時に使う	Katagu2
7340.74	katamu2 <katamete iku などというのか ふつうだから katamu2 が多いと いえよう>	katagu2
7342.72	katamuru } 両方 kataguru }	
7383.98	kataguru ^m <古くからの言い方>	katager ^m
7386.56	katsugu <多>	katagu
7401.92	katsugu (武蔵正人「愛媛の方言」でも松山には kataguru は使われていない。)	

- ▶ A・[B]・[C] ごとに別紙を使用する。
- ▶ その中での情報は地点番号順に並べる。
- ▶ 注記の<>〔〕は厳密にする。

質問番号 264	地図番号 66	A 普通注記	ページ
項目名 かつぐ(棒) 264		[B 除いた共通語]	(7)
		[C 除いた特殊語]	

地点番号	A 語形とその注記 [B・C 除いた語形とその注]	A 注のない語形 [B・C 残した語形とその注]
7430.75	katsugū (katagū, katai-de というのもある)	
7513.15	ka ^h tsu ^h ~gu <古>	ka ^h ta ^h ~guru
8325.56	katagū } <どちらか同じ方に言うと思う> kakaeru } (以下同じカカエルの概念の共通語 の場合と違う。)	
8331.12	katagū: <楽な言い方>	Katagut
8334.63	katagui (カタダルの語尾の付音化)	
8343.74	katagui } <半々に使う> katamui }	
8363.64	katamut } <半々に使う> katagut }	

- ▶ A・(B)・(C)ごとに別紙を使用する。
- ▶ その中での情報は地点番号順に並べる。
- ▶ 注記の<>〔〕〔〕は厳密にする。

質問番号 264	地図番号 66	A 普通注記	ページ
項目名 かつぐ(棒) 264		(B 除いた共通語)	(/)
		(C 除いた特殊語)	

地点番号	A 語形とその注記 (B・C 除いた語形とその注)	A 注のない語形 (B・C 残した語形とその注)
6429.65	カツグ <新希共>	カタケル
6449.84	カツグ <稀>	カタケル
6591.57	katsunju <日常語ではない>	settaraw
6640.34	katsuju <新>	kazuku
7354.23	カタムル } (1つとみる) カタムル } ^{地図作成上}	カタケル
	カツグ <新>	—————
7512.43	katsujw <共>	katajw
7513.01	katsujw <共>	katajerw

